

1. 政策及び目標等

政 策	会計基準の整備を促すことによる企業財務認識の適正化
達成すべき目標	国際的動向を踏まえた会計基準の整備の促進
目標設定の考え方及びその根拠	経済・金融取引の国際化が進展する中、金融資本市場の重要なインフラである会計基準についての国際的なコンバージェンスを進めることにより、我が国資本市場の活性化と我が国企業の国際的な資金調達の円滑化を図ることが重要である。
測定指標	会計基準の整備状況

2. 17年度重点施策等

17年度重点施策	会計基準等の国際的な対応等
参考指標	EUによる日本の会計基準の受け入れ状況 会計基準等の整備状況

3. 政策の内容

我が国会計基準は、企業会計審議会等において、ここ数年精力的に改訂がなされ、諸外国に比べても遜色のない高品質なものとなってきています。一方で経済取引・企業活動の高度化、複雑化、国際化等の急速な変化に的確に対応しつつ、引き続き着実な基準整備を促していくこととしています。

4. 平成17事務年度における事務運営についての評価

(1) EUによる日本の会計基準の受入れ方針

金融庁と国内関係者が連携して、コンバージェンスへの対応を進めてきたこと等を踏まえ、EUにおいて、EUにおける第三国企業について、当初2007年1月から国際会計基準またはこれと同様の基準の適用を義務付けられる方針であったところ、日・米・カナダ等については、その期限を2009年1月まで延期するとの提案がなされました。

(2) 国際的な対話の枠組みの構築

2006年1月に金融庁と米国証券取引委員会（SEC）との間で、「日米ハイレベル証券市場対話」について、定期的開催する枠組みとすることを合意したことを受け、今後、日米双方の対話の一層の促進が図られることとなりました。

(3) 会計基準の整備

ASBJ においては、EU の同等性評価等の会計基準を巡る国際的な動向を踏まえ、2006 年 1 月には欧州証券規制当局委員会 (CESR) の指摘した差異を中心とした 2008 年までの取り組みを示した文書を公表し、2006 年 3 月には国際会計基準委員会 (IASB) とのコンバージェンスの加速化に向けた合意がなされました。また、前述のように、ASBJ において、国際的な動向を踏まえた会計基準の整備が着実に進められています。これらについては、企業財務認識の適正化を通じた我が国資本市場の信頼性の向上に寄与するものと考えています。

5. 今後の課題

昨今、会計基準の国際的なコンバージェンスは一層の加速化の様相を呈してきています。また、EU における同等性評価に関連し、EU 委員会は 2008 年 4 月までに、我が国会計基準を含めた各会計基準コンバージェンスの進捗状況の評価を行うことを提案しています。こうした国際的な動向を踏まえれば、国内固有の事情には留意しつつも、我が国金融市場の活性化と我が国企業の国際的な資金調達の円滑化等の観点から、会計基準のコンバージェンスに向けて関係者が一致協力し、一段の取り組みを進めていくことが求められているものと考えています。

このため、会計基準のコンバージェンスの重要性について情報発信等を行い、引き続き関係者に対しコンバージェンスに向けた一層の取り組みを促すとともに、会計基準等を巡る国際的な議論に積極的に参加していく必要があります。

また、このような国際的対応を含め、ASBJ における会計基準、実務指針などの整備改善に向けた活動を引き続き支援していく必要があります。

以上を踏まえ、19年度において、会計基準等に関する国際対応の強化を図るための機構定員要求を行う必要があります。

6. 当該政策に係る端的な結論

政策の達成に向けて成果が上がっているが、環境の変化や取り組みの有効性等を踏まえ、取り組みの充実・改善や新たな施策の検討等を行う必要があります。